

アナキスト詩人

ダダ・カンスケ

陀田勘助展

俺の胸には煤煙でよごれた煙突が立つた
心臓は泥溝で醗酵し始めた

君は

島の頂上で地酒をのむで 眼鏡の奥で瞳をパツチリと開いてゐるだらう

鰯はひからび始めたらう

鯨は沖でのごかに塩を吹上げてゐるだらう

だが君は

煙突から赤ん坊が流産し煙突の下に

毎日墓場が建てられるのを見てゐるのだ

陀田勘助「島に居る岡本潤と俺の肖像」より

あの時代の凄さから目が離せなくなったのかもしれない。
亀戸事件、ギロチン社事件、どこをついても火焰や濁流が噴き出して、私の手には負えなかった。
そのとき私たちはどう生きうるのだらうか。

(吉田美和子)

2022年7月2日(土)～8月7日(日)

会場 市立小樽文学館無料展示スペース

(〒047-0031 小樽市色内 1-9-5 電話 0134-32-2388)

開館時間 9時30分～17時(入館は16時30分まで)

休館日 毎週月曜日(7月18日を除く)、7月19・20日(火・水)

主催 市立小樽文学館 後援 小樽文学舎

協力 株式会社共和国(吉田美和子『ダダ・カンスケという詩人がいた』)

写真・吉田美和子「小名木川・クローバー橋にて」